

建築基準法第12条第5項の規定に基づく

工事監理報告書(構造関係)

年 月 日

町田市建築主事 様

代表となる 工事監理者	事務所名				()級建築士事務所()登録 第 号
	所在地				電話
	資格・氏名				()級建築士(大臣・知事)第 号
工事施工者	施工者名				建設業許可 (特定・一般) 第 号
	所在地				電話
	氏名				(法人にあっては、その事務所の所在地、名称、代表者の氏名)
建築主	住所				電話
	氏名				(法人にあっては、その事務所の所在地、名称、代表者の氏名)

下記の建築物は建築基準法並びに、これに基づく命令及び条例の規定に適合した施工を行い、構造耐力上安全であることを確認しましたので報告します。

工事名											
建築場所		東京都町田市									
確認済証 交付年月日		年 月 日 第 号				構造計算		ルート1-(), ルート2-(), ルート3、他			
工事概要	構造 種別	S・RC・WRC・ SRC・PC・木・間知				工事種別		新築・増築・			
		階数		地上 階、地下 階、PH 階		建築面積		㎡		延べ面積	
						軒の高さ		m			
確認済証 交付後の 設計変更	有・ 無	内 容	(建築基準法第6条第1項、若しくは第18条第3項の計画変更又は建築基準法第12条第5項の報告)								
			1 年 月 日 第 号								
			2 年 月 日 第 号								
			3 年 月 日 第 号								
コン ク リ ー ト	普 通	基礎		Fc : 18・21・24・27・30・33・		N/mm2		支持地盤		支持力 kN/㎡	
		一般		Fc : 18・21・24・27・30・33・		N/mm2		直接基礎 独立、連続、べた		液状化対策 有・無	
		階～ 階		Fc : 18・21・24・27・30・33・		N/mm2		杭基礎			
	軽 量		LFc : 15・18・21・		N/mm2・比重		☐ 打ち込み杭 (RC・PC・PHC・鋼管)				
	P・Ca		Fc :		N/mm2		杭		☐ 埋め込み杭 (セメントミルク)		
鋼 材	鉄 筋	SR		235、295		☐ 場所打ちコンクリート杭 (Fc: N/mm2)					
		SD		295 (A・B)、345、390		(拡底・アースリブ・リベース・ペント・BH・深礎・他)					
		ガス圧接		有・無		鉄筋径 D ～D		☐ 異形摩擦杭			
		特殊継手		有・無		☐ 認定・評定工法 ()					
	形 鋼 鋼 板 鋼 線 鋼 棒	SS		400、490、		番号 年 月 日 第 号					
		SM		400 (A・B)、490 (A・B)、		特殊な材料・構法等 有・無					
SN		400 (A・B・C)、490 (B・C)、		大臣認定 年 月 日 第 号							
STKR		400、490、BCR295 BCP ()		認定内容 ()							
				導入時のコンクリート強度		建築センター評定・評価 年 月 日 BCJ-					
				Fc: N/mm2		評定・評価内容 ()					
工事監理組織 ※1						工事監理者総合所見 ※2					

検 査 ・ 確 認 事 項 に つ い て、 □ に チ ェ ッ ク を 入 れ て く だ さ い。	☐ 1. ☐ 2. ☐ 3. ☐ 4. ☐ 5. ☐ 6. ☐ 7. ☐ 8. ☐ 9. ☐ 10. ☐ 11. ☐ 12. ☐ 13. ☐ 14. ☐ 15. ☐ 16. ☐ 17. ☐ 18. ☐ 19. ☐ 20. ☐ 21. 設計支持地盤を確認した。(層) 基礎杭の品質、位置(偏心距離)、径、長さ、本数、及び支持力を確認した。 基礎の形状、配筋の本数、及び配置を確認した。 柱・梁の形状、主筋径、本数及び配置を確認した。 帯筋、あばら筋の形状、鉄筋径、本数及び間隔を確認した。(副帯筋、副あばら筋を含む) 柱・梁の主筋の定着、継手及び位置を確認した。 (☐ ガス圧接継手 ☐ 特殊継手 ☐ その他()) 壁主筋の径、間隔、定着、継手及び位置を確認した。 床板及び階段の厚さ、主筋径、方向、間隔、定着、継手及び位置を確認した。 構造スリット位置及び形状を確認した。 設備配管等の配置を適正に行った事を確認した。 梁、床、壁の貫通箇所の位置及び補強を確認した。 型枠寸法並びにかぶり厚さを確認した。 打設後の養生(型枠のせき板、支柱の取り外し等)を適正に行ったことを確認した。 プレキャスト・コンクリートの品質、強度を確認した。 プレキャスト・コンクリートの接合方法等を確認した。 エキスパンション・ジョイントの位置及び間隔等を確認した。 コンクリートブロックの種別(A・B・C)及びブロックの厚さを確認した。 コンクリートブロック壁のタテ筋、ヨコ筋、端部筋の本数、定着及び継手を確認した。 使用するコンクリートの受け入れ検査を行い、所要のワーカビリティ、強度、その他の 性質が得られた事を確認した。 下記の品質、強度を以下の方法により検査、確認した。 ☐ コンクリート ☐ 鉄筋 ☐ 鋼材 ☐ ガス圧接 ☐ 杭 ☐ その他 { ☐ 現場水中養生した供試体の4週圧縮強度試験 ☐ 塩分測定 ☐ ミルシート ☐ 引張試験 ☐ ミルシート ☐ 引張試験 ☐ 引張試験 ☐ 非破壊検査 ☐
---	--

検査箇所	検査月日	指摘事項(要写真)※3	是正月日	是正内容(要写真)※3

記入上の注意 ・ 提出及び記入は、原則として工事監理者が行ってください。

※1 工事監理組織の欄は、工事の監理体制を具体的に記入してください。

※2 工事監理者総合所見の欄は、管理目標とその結果に対する所見を具体的に記入してください。

※3 指摘事項と是正内容の欄は、工事監理者が検査を行い、指摘した事項とその是正内容を記入してください。

その他 ・ 施工写真、施工記録、データ(ミルシート、各種試験結果等)を添付してください。

・ 鉄骨工事をとまう場合は鉄骨工事報告書を添付してください。

※審査後返却致します。

2022年1月 改訂